

温暖地向けの無エルシン酸なたね新品種「ななしきぶ」



作物機能開発部 資源作物育種研究室 電話019-643-3655

研究のねらい

これまでに育成された食用油向けの無エルシン酸なたねは、東北地方の栽培に適した中晩生種であった。そこで、温暖地栽培に適するように早生化した無エルシン酸品種の育成をねらいとする。

研究の成果

「ななしきぶ」は、2002年に東北農業研究センター（岩手県盛岡市）において育成され、滋賀県で栽培されている。

成熟期（東北農研）は7月2日で、「オオミナタネ」よりやや遅く、「キザキノナタネ」より早い、「中生」である（図1）。

「オオミナタネ」に比べて、多収(35.5kg/a)であり、寒雪害抵抗性は強い（図1、表1）。

子実中にエルシン酸を含まず、乾物当たりの含油率は41.8%で、「オオミナタネ」、「キザキノナタネ」に比べやや低い（表1）。

草丈は「オオミナタネ」より長いが、耐倒伏性は「オオミナタネ」よりやや強い（表1）。

成果の利活用

関東地方以西の温暖地の栽培に適するが、東北地方南部の少雪地帯でも栽培可能である。

他の品種やなたねと交雑可能なアブラナ科植物とは十分距離を離して栽培する。

隔離採種され、無エルシン酸が維持されている種子を使用する。

越冬前の生育量を充分確保するために、適期播種を励行する。

過度の密植、多肥栽培は倒伏や菌核病の発生を、連作は根こぶ病などの連作障害の発生を招く恐れがあるので避ける。

詳細は

<http://www.naro.affrc.go.jp/top/seika/2002/tohoku/to041.html>をご覧ください。

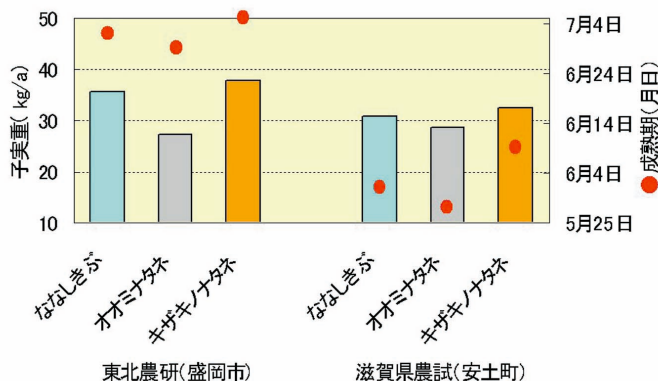


図1 「ななしきぶ」の収量と成熟期(1999~2001年)

特性\品種	ななしきぶ	オオミナタネ	キザキノナタネ
抽苔期	4月12日	4月11日	4月20日
開花期	5月2日	5月5日	5月4日
草丈(cm)	126	104	154
菌核病抵抗性	やや強	やや強	強
耐倒伏性	強	やや強	強
寒雪害抵抗性	やや強	やや弱	強
千粒重(g)	3.6	3.4	3.9
粒の見かけの品質	上下	上下	中上
乾物当たり含油率(%)	41.8	43.3	45.3
エルシン酸含量(%)	0.0	44.9	0.0
グルコシノレート含量	多	中	多

表1 「ななしきぶ」の特性(東北農研 1999~2001年)



図2 「ななしきぶ」の開花